

2022年4月17日(日)

主催：(一般社団法人)障がい児成長支援協会

共催：オネストリー株式会社

山内先生のオンライン特別支援講演会 《第1部》

新しいことに苦手な子にできる

支援の具体例

- 新しい先生やクラスに慣れない子の対応
- 新しい行事や学習内容に入る前の支援方法
- 不登校・保健室登校になってしまった子への対応

(一般社団法人)障がい児成長支援協会 協会長

中部学院大学非常勤講師 山内康彦(学校心理士・ガイダンスカウンセラー)

文部科学省は、通常学級においても

6. 5%の発達障害の児童・生徒がいると公表している

しかし、保護者の多くがその実態を認めようとし
ない
その結果、支援が遅れて二次障害になる？

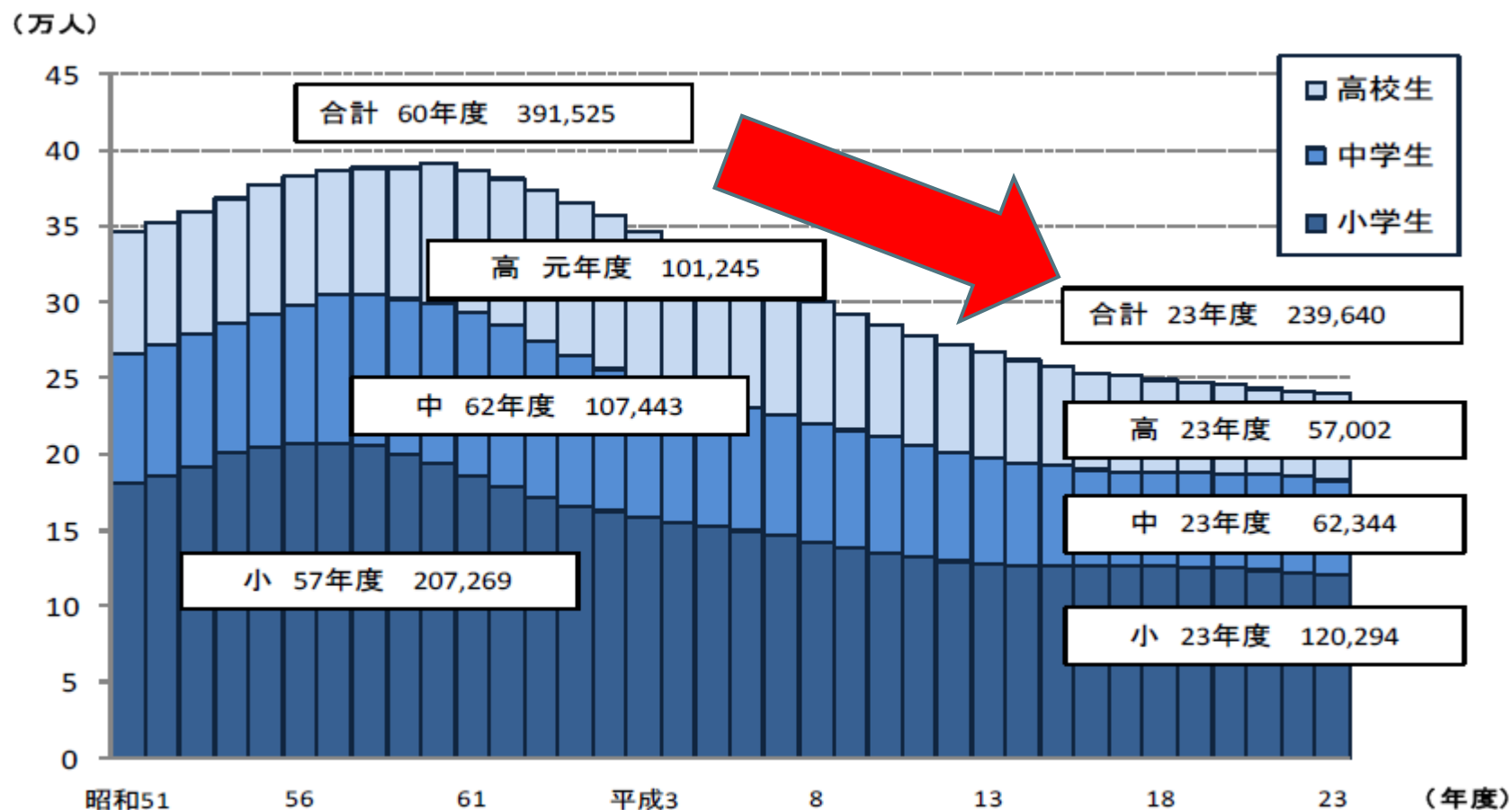
「早期からの適切な療育」が重要となる

療育は「医療」と「教育」

→専門機関との連携が重要

【岐阜県の児童生徒数は減少傾向】 ※岐阜県学校基本調査より

図1 児童・生徒数の推移（小・中・高等学校）



※表中の数字は、昭和51年度以降における児童・生徒数の最高値と平成23年度の数値。

【支援学校在籍者数は増加】

※岐阜県学校基本調査より

特別支援学校在学者数の推移 (県内特別支援学校計)

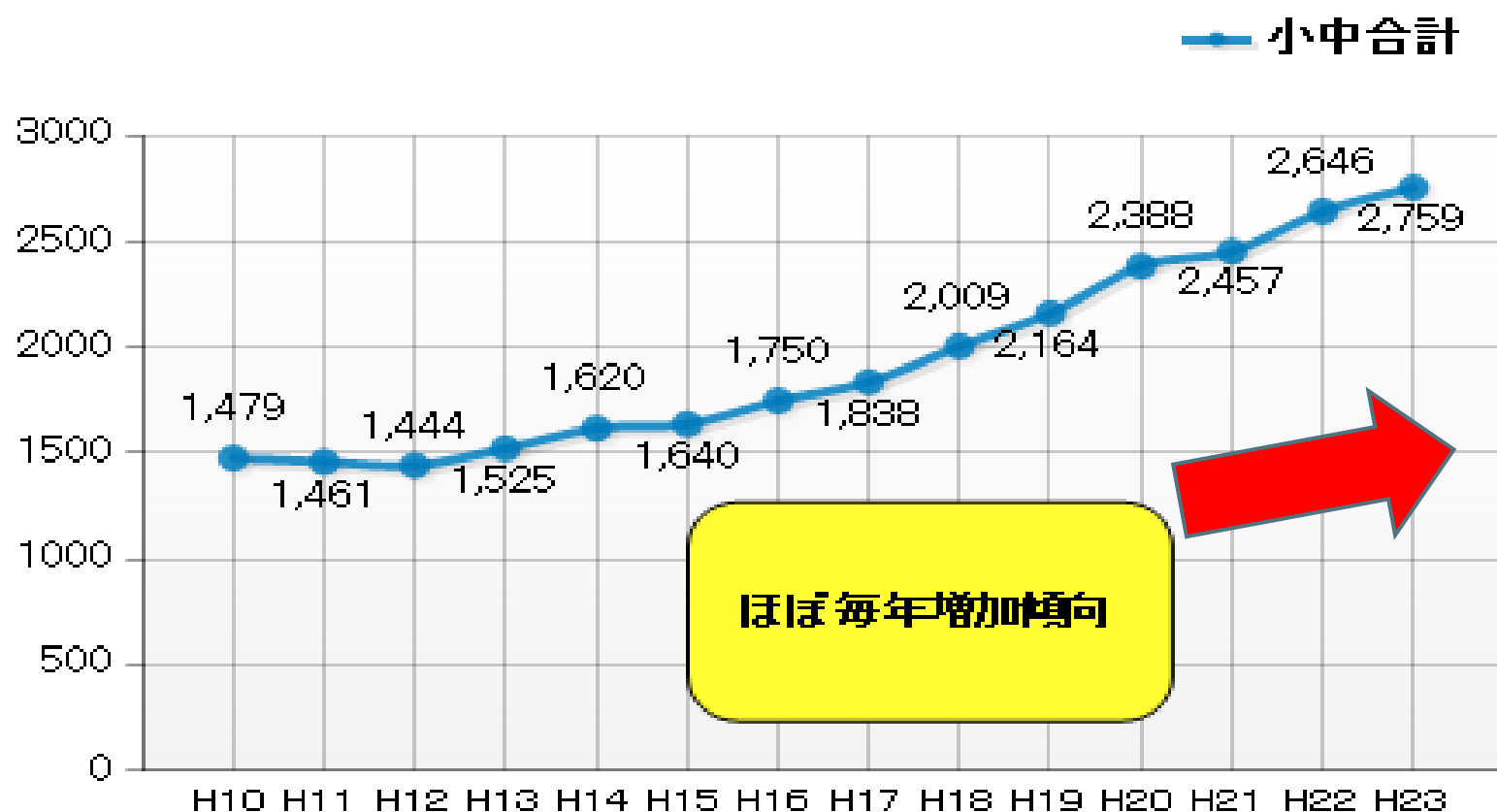
— 各学校種(視覚障害・聴覚障害・知的障害・肢体不自由・病弱)合計



【支援学級在籍者も増加傾向】

※岐阜県学校基本調査より

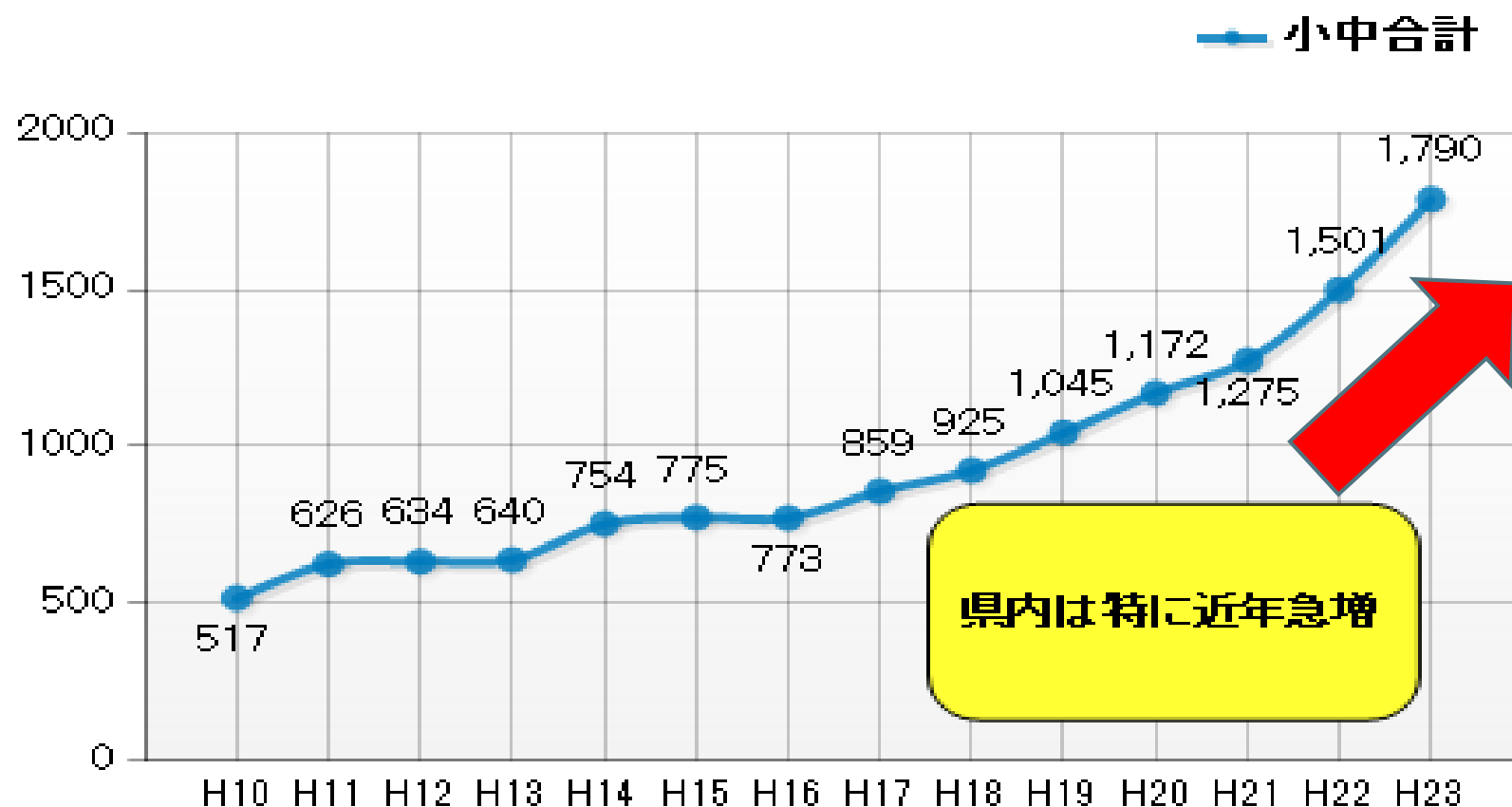
特別支援学級及び在籍児童生徒数の推移 (県内特別支援学級計)



【特に通級在学者は近年急増】

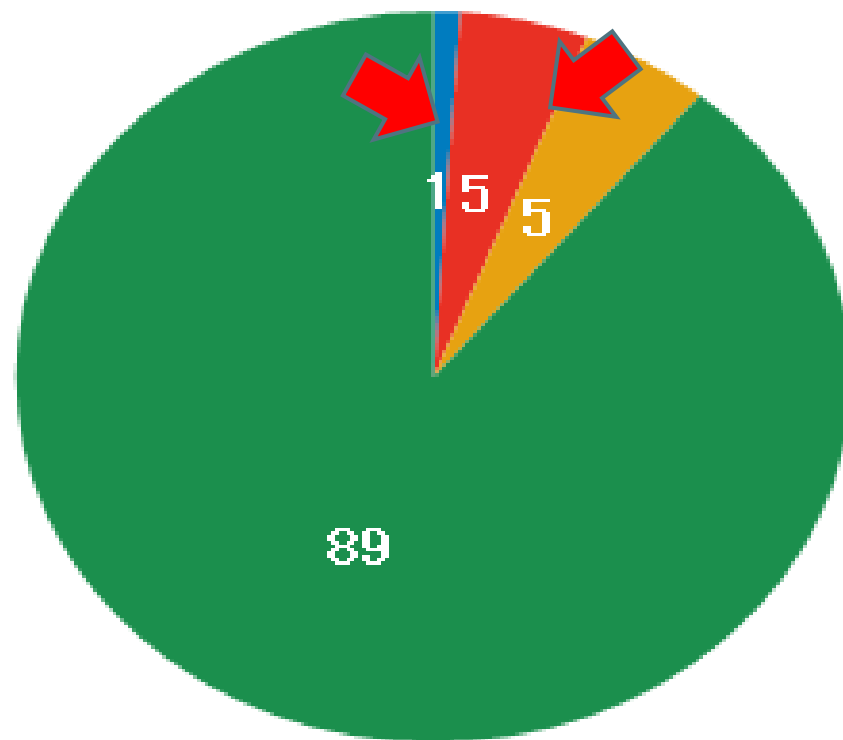
※岐阜県学校基本調査より

通級による指導を受けている 児童生徒数の推移（県内）



【通常の学校内で約6%の対象児】 (可児市も全国同様)

特別支援が必要な児童生徒の割合(%)
(可児市小中学校回収率90% N=7642)



何かの診断名がある子
特別な支援が必要な子

違和感を感じる子
定型発達の子

ここ数年、“障害”という言葉 avoided “タイプ”としてとらえる診断名が一般的になってきた

▲従来は英語名の病名を直訳していたために“障害”という表記になっていた

(例) LD → 学習障害 ASD → 自閉スペクトラム障害

発達障害は“障害”ではなく“タイプ”？

自閉スペクトラム障害 → 自閉スペクトラム症

注意欠陥多動性障害 → 注意欠如多動症

学習障害 → 限局性学習症

※これで子ども達の発達の凸凹が受け入れやすくなる？

子ども達が不適応を起こす様々なポイント

- ①登園しぶり(集団の活動が苦手)
- ②1年生の登校しぶり(一斉指示が苦手)
- ③3~4年生からの不登校(仲間関係のトラブル)
- ④中学1年生から不登校の数は、10倍
 - ・毎時間担任がかわる
 - ・宿題がまとめて出てコツコツできない
 - ・部活動の先輩・先生との人間関係 など

今日のお話の内容

(子どもたちのためになるお土産を少しでも多くご紹介したい。)

- 1 新しい先生やクラスに慣れない子の対応
- 2 新しい行事や学習内容に入る前の支援方法
- 3 不登校・保健室登校になった子への対応

1 新しい先生やクラスに慣れない子の対応①

☆『意見書』を書いてもらって積極的に動く

保護者が言わないといけない

園や学校から動いてくれることはまずない
→なぜなら“公務員”だから

しかし、保護者だけで要求すると→モンスター

意見書→医師や専門家等に書いてもらおうとよい

『意見書』の例

(例1)

山内君は自閉症の傾向があり、新しい環境が苦手である。小学校1年生のクラス編成では、園で気心の知れた数名を意図的に多く入れるとよい。

(例2)

山内君は、今までに男性の担任になったことはなく、お父さんの影響もあって恐怖心をもちやすいので、1年生のはじめは、温かく受け入れてくれる女性の担任が望ましい

1 新しい先生やクラスに慣れない子の対応②

☆『入学式』の練習ができる！

入学式は、前日には準備が整っています。学校長が一番嫌なことは、新1年生が式に出られないことです。一度練習するだけで入学式に出やすくなるのであれば、喜んで当日の練習を許可してくれます。

そして、ここまでしてくれる校長も→新担任を・・・

1 新しい先生やクラスに慣れない子の対応③

☆成功した支援は、小学校二年生以降も継続

“クラスのメンバーを配慮する”といっても、『ずっと同じ子でないとダメ!』では成長がありません。担任の先生には、配慮をしたクラス編成はするものの“新しい仲間作り”に積極的に取り組んでもらうようにしましょう。

◎同じクラスにしてほしい子は複数提示

◎苦手で避けたい子は1名のみ提示

1 新しい先生やクラスに慣れない子の対応④

☆中学校のクラス編成は小学校が決める？

通常中学校は複数の小学校が集まります

- ①まずは、各小学校が、数クラスにクラス分け
- ②中学校は、各小学校がもちよった分けたクラスを合体するのが仕事

つまり、苦手な子の配慮等は小学校でできる！

しかし、小学校の先生は教えてくれない……

今日のお話の内容

(子どもたちのためになるお土産を少しでも多くご紹介したい。)

- 1 新しい先生やクラスに慣れない子の対応
- 2 **新しい行事や学習内容に入る前の支援方法**
- 3 不登校・保健室登校になった子への対応

叱られる子は負のスパイラルに陥っている

できない→叱られる→自信がなくなる
→やらない→叱られる→ふてくされる
→怒鳴られる→逃げる（反抗する）
→もっともっと怒鳴られる

◆自己肯定感をなくしていく

「俺はどうせバカだから・・・」

「どうせ 私には できないし・・・」

「はじめから やらない方がいいや」

ほめることでよいスパイラルに変えていく

できる→ほめられる→自信がつく→やる
→またほめられる→もっともっとやる
→どんどんできる→更にほめられる
→より高い目標に向かって取り組む

◆自己肯定感を高めていく

「ぼくは、計算は得意なんだ。」

「調理が好きでコックさんになりたい」

「勉強は苦手だけどやさしい子です」

「通常の教育」と「特別支援教育」の違いを一言で表すと……

《通常の教育》

できないことへのチャレンジ教育

※今までのできた自信があるからできる。

《特別支援教育》

できることからの出発教育

※やらせでもよい。まずは、
できた経験を沢山積むことで
自信となり自己肯定感が高まる



2 新しい行事や学習内容に入る前の支援方法①

☆“行事の練習”を家庭でする

(例) 宿泊研修の練習を修学旅行にも活かした例

- ・秋の自然の家の宿泊を前に夏休み家族でキャブに行った(同じ部屋・同じお風呂・同じカレー作り・同じ行程のハイキング)→安心して行事に参加
- ・そこで・・・修学旅行も事前に家族で京都へ行った
→当日も安心して参加 (※学校との連携)

2 新しい行事や学習内容に入る前の支援方法②

☆“活動の練習”を家庭でする

学校で行う学習活動は1年決まっている！

活動や学習に入る数ヶ月前から家庭で練習する
練習して→「僕にもできそう」という見通しが大切

(例)生活科の昔あそび(けん玉・コマ回しなど)

体育のなわとび(前とび・二重とび)

習字やリコーダー、計算の仕方も……

(※学校との連携)

今日のお話の内容

(子どもたちのためになるお土産を少しでも多くご紹介したい。)

- 1 新しい先生やクラスに慣れない子の対応
- 2 新しい行事や学習内容に入る前の支援方法
- 3 不登校・保健室登校になった子への対応

3 不登校・保健室登校になった子への対応①

☆“エネルギーをたくわえるまで待つ”の危険性

小6になって →エネルギーを蓄えましょう

中3になって →エネルギーを蓄えましょう

18歳になって→エネルギーを蓄えましょう

30歳を過ぎても……引きこもり 80—50問題へ

学校へ行かなくても良いので家から出すこと！

「社会性」を下げないこと→戻るのに倍必要になる

☆現在「放課後等デイサービスの利用」も注目！

3 不登校・保健室登校になった子への対応②

☆まずは、中学3年生以降の進路から考える

→現在中学3年生で就職は現実難しい！

「支援学校高等部」に進学するのか？

→原則“障害者手帳”が必要

「高等学校(高校)」に進学するのか？

→最低限の学力が必要

通常の高校に進学させるなら→登校刺激必要！

特別な高校に進学なら→無理しなくてよい

不登校や特別支援学級から進学できる 『特別な高校』

①公立の定時制高校や単位制高校

☆新規：インクルーシブ校

②特別支援が必要な生徒を受け入れてくれる
私立高校

例：星槎高校（中学校も有）等

③通信制高校（サポート高校）

例：明蓬館 S N E C 高等学校（中学部有）等

④専修学校（通信制＋専門学校）

例：北海道芸術高等学校 等

3 不登校・保健室登校になった子への対応③

☆山内の実践事例から考える

小学校4年生のA君

○自閉スペクトラム症の傾向のあるA君が授業を抜け出して保健室に行く回数が増えてきた。

○担任が注意すると、ますます行く回数が増えた。

そこで山内が「ヘルプカードを渡す」

・1日1枚保健室に行けるカードだよ

・使わないと溜めることができるよ！

◎徐々にカードを使わなくても安心できるようになり、保健室に行かなくなった。

3 不登校・保健室登校になった子への対応④

☆山内の実践事例から考える

小学校5年生のB君

○発達障害の診断のあるB君は完全な不登校

○専門医は「登校刺激を与えないように！」

山内は「母親に登校刺激を与えるように」と指示

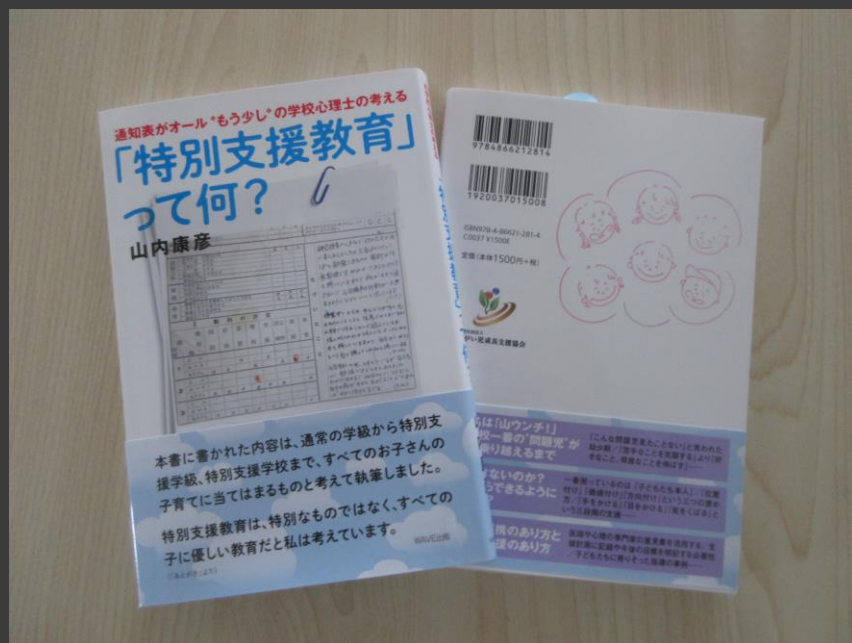
・担任と母親が毎日30分あったことを話す

☆ある日、B君が「あっ運動会の応援練習だ！」

→そして見学→そして参加→少しずつ登校へ

◎興味をもったところから、本人の気持ちを引き上げて学校復帰へ！ ☆学校との連携が不可欠

困り感を共感的に受け止め、早期から適切な支援を継続的に行うことが大切です



**特別な支援は、もはや特別なものではありません
全ての子どもたちにとってやさしい支援なのです**

ご清聴ありがとうございました。

4月からFMラジオで毎週放送 「山内先生のランチトーク」

毎週火曜日 12時～13時

① 「愛知北FM放送」で検索

② 下へ→「JCB Aで聴く」をクリック

③ 白い“▶マーク”で再生開始！

特別支援に関わる様々なお話を気軽に聴けます。